

三浦秀一教授著作目録

【凡例】

1. 本目録は、三浦秀一教授の著述および編集に関わる業績の目録である。
2. 収録範囲は、二〇二四年三月三十一日現在で作成者が把握し得たものとした。
3. 会議予稿集掲載の論文、および同内容の中国語論文と日本語論文の記載方法については、左記の方針に拠った。
 - (1) 会議論文としてみ存在する業績は、会議論文も収録した。
 - (2) 会議論文と同一言語、同一題目の論文が学術雑誌や論文集に存在する場合、それらを掲載し、会議論文は省略した。
 - (3) 内容が近似していると思われる場合でも、使用言語もしくは題名のどちらかが異なっていれば、別な論文として収録した。
 - (4) 同一言語、同一題目の論文が、学術雑誌と論文集の双方に収録されている場合、論文集を正式な収録媒体として記載し、雑誌は「※」で補記した。

【著書】

1. 『中国心学の稜線―元朝の知識人と儒道仏三教―』研文出版、二〇〇三年
2. 『科挙と性理学―明代思想史新探』研文出版、二〇一六年

【編著書】

1. 中嶋先生退休記念事業会編『中国の思想世界』イズミヤ出版、二〇〇六年 ※事業会世話人。【論文】31も参照。
 2. 『東北人の自画像』（人文社会科学講演シリーズ4）東北大学出版会、二〇一〇年
 3. 吉田公平教授退休記念論集刊行会『哲学資源としての中国思想―吉田公平教授退休記念論集』研文出版、二〇一三年
- ※刊行会世話人のうちの一人。【論文】48も参照。

【論文】

1. 「孫夏峯—その人と思想」『集刊東洋学』第四九号（一九八三年）三七—五三頁
2. 「湯斌と陸隴其—清初士大夫の人間理解と経世意識—」『文化』第四八卷第一・二号（一九八四年）七四—九二頁
3. 「顔元の思想—『存性』・『存学』両篇を中心に—」『集刊東洋学』第五四号（一九八五年）五五—七〇頁
4. 「若き日の顔元—清初士大夫の思想形成に関する一考察—」『日本中国学会報』第三七集（一九八五年）一一〇—一二三頁
5. 「彭紹升の思想—乾隆期の士大夫と仏教に関する一考察—」『東方学報 京都』第六〇冊（一九八八年）四三九—四七九頁
6. 「『思辨録輯要』における内聖外王の学」、岩見宏・谷口規矩雄編『明末清初期の研究』京都大学人文科学研究所（一九八八年）五四七—五七八頁
7. 「彭紹升と戴震の思想圏」『東方学報 京都』第六二冊（一九八〇年）四四七—四八一頁
8. 「呂坤の「自然」—「当然」認識—その「職分」観を貫く論理として—」、藤井讓治・横山俊夫編『安定期社会における人生の諸相—仕事と余暇—』京都ゼミナールハウス（一九九一年）八七—九二頁
9. 「元代思潮研究序説—全真道士李道謙の動向を軸に—」『集刊東洋学』第六七号（一九九二年）六六—八四頁
10. 「『真誥』愈安期本成立の時代的情況—万曆の知識人と道教—」『中国古道教史研究』同朋舎出版（一九九二年）五一—五六四頁
11. 「思想統制下の編纂作業—劉惟永編集・丁易東校正『道德真經集義』の思想史的位置（上）—」『東アジアの伝統社会における指導者像の比較研究』（科研費成果報告書、代表：吉田忠）一九九三年、四〇—四六頁
12. 「宋末元初における幾つかの『老子』首章理解—劉惟永編集・丁易東校正『道德真經集義』の思想史的位置（下）—」『文化』第五六卷第三・四号（一九九三年）三三—五二頁
13. 「郝經小論—中心に立つ意味—」、東北大学文学部編『社会と文化における中心と辺境』（教育研究学内特別経費研究報告）一九九五年、五四—五八頁
14. 「金末の宋学—趙秉文と李純甫、そして王若虚—」『東北大学文学部研究年報』第四四号（一九九五年）六九—一〇〇頁
15. 「金朝性理学史稿—十三世紀前半の北中国における程朱学と新道教の交錯—」『文化』第五八卷第三・四号（一九九五年）三三—五三頁
16. 「『大疑録』にいたる道」、横山俊夫編『貝原益軒—天地和楽の文明学』平凡社、一九九五年、一九九—二三三頁
17. 「『六経皆史』説への変奏」『中国知識人の精神構造の展開についての史的研究』（平成五—七年度科研費成果報告書、代表：中嶋

- 隆藏（「5」、三浦秀一（6-7））一九九六年、五二七〇頁
18. 「金元の際の全真教―范玄通・王棲雲から姫知常へ―」『東北大学文学部研究年報』第四五号（一九九六年）、一〇五―一三六頁
19. 「許衡試論」『日本中国学会報』第四九集（一九九七年）一三四―一四八頁
20. 「学生呉澄、あるいは宋末における書院の興隆について」『文化』第六〇巻第三・四号（一九九七年）三七―五六頁
21. 「元末の宋濂と儒道仏三教思想」『東洋古典学研究』第六集（一九九八年）四九―八一頁
22. 「宋濂『龍門子凝道記』と元末明初の諸「子」」『集刊東洋学』第七九号（一九九八年）八七―一〇六頁
23. 「宋濂と方孝孺の「文」、村上哲見先生古稀記念論文集刊行委員会編『中国文人の思考と表現』汲古書院（二〇〇〇年）四七―四七五頁
24. 「呉澄『老子道德経註』の思想」『集刊東洋学』第八六号（二〇〇一年）四二―六一頁
25. 「明代荘学史研究のために―荘子注の出版と「成心」および「渾沌」解―」『集刊東洋学』第九〇号（二〇〇三年）四二―六一頁
26. 「張自烈撰『四書大全辯』刊刻事情」『東アジア出版文化研究―こはく』二〇〇四年、三―三三頁
27. 「清初四書注考二題」『東アジア出版文化の研究―学問領域として書誌・出版の研究を確立するために』（平成二一―二六年度科研費成果報告書 本冊1 代表：磯部彰）二〇〇五年、三二―三三―三四頁
28. 「明清四書注釈書関連二表」『東アジア出版文化の研究 調整班（B）出版物の研究』（平成一五―一六年度科研費成果報告書 本冊1 代表：三浦秀一）二〇〇五年
29. 「明善・觀我・野同―明末における桐城方氏の家学とその継承」『東洋史研究』第六四巻第二号（二〇〇五年）六五―九四頁
30. 「王者は天下を以て家と為す―万曆二十九年会試の答案を読む」『明代荘学史研究』（平成一六―一七年度科研費成果報告書、代表：三浦秀一）二〇〇六年
31. 「Nourishing Life and Becoming an Immortal」『明代荘学史研究』（平成一六―一七年度科研費成果報告書、代表：三浦秀一）二〇〇六年
32. 「王夫之『莊子解』における「寓庸」の立場」、中嶋先生退休記念事業会編『中国の思想世界』イズミヤ出版（二〇〇六年）三〇―五―三二頁
33. 「学生呉澄与南宋末葉的江西書院」『湖南大学学報（社会科学版）』二〇〇七年第三期、四一―五〇頁
34. 「牧民と神―皆川淇園『名疇』の統治者論とその思想基盤」『茶山学』第一一号（二〇〇七年）二八一―三二三頁

35. 「現代日本人の価値観と伝統的思想―仏教、儒教、神道・国学の思想内容と調査項目の作成1―」『東北大学文学研究科研究年報』第五八号（二〇〇八年）一五四―一八〇頁 ※大渊憲一氏・佐藤弘夫氏との共著
36. 「人已兩忘―陸西星『道德玄覽』を論じて王道『老子億』に遡る―」『集刊東洋学』第一〇〇号（二〇〇八年）二二九―二四九頁
37. 「陸西星与其老子注」『全真道与老莊学国際学術研討会論文集』華中師範大学出版社（二〇〇九年）六三六―六五〇頁
38. 「明代科挙『性学策』史稿」『第五届科挙制与科挙学研討会報告論文集』二〇〇九年
39. 「明末清初期『四書大全』改訂の潮流與士風之变化」『第三届中国経学国際学術研討会』二〇〇九年
40. 「明代科挙『程論』管窺」、劉海峰主編『科挙学的形成与発展』華中師範大学出版社（二〇〇九年）三七二―三九三頁
41. 「明代科挙『性学策』史稿」『集刊東洋学』第一〇三号（二〇一〇年）四一―六一頁
42. 「王門朱得之的師説理解及其『莊子』注」、鄭吉雄・佐藤鍊太郎主編『台日学者論經典詮釋中的語文分析』台湾学生書局（二〇一〇年）三八一―四一七頁
43. 「郷試考官林光与明代中期的副榜合格者」、天一閣博物館編『科挙与科挙文献国際学術研討会論文集（下）』上海書店出版社（二〇一一年）一九八―二二三頁
44. 「副榜挙人と進士教職―明代における地方学官と郷試考官の一特徴―」『集刊東洋学』第一〇六号（二〇一一年）四一―六一頁
45. 「湛甘泉的二業合一論及其影響」『湖南大学学报（社会科学版）』二〇一一年第六期、一八―二四頁
46. 「王門朱得之の師説理解とその莊子注」、佐藤鍊太郎・鄭吉雄編『中国古典の解釈と分析』北海道大学出版会（二〇一二年）三三―七―三六五頁
47. 「張自烈撰『四書大全辨』与明末清初的士風」『哲学与宗教』第六号（二〇一二年）一九八―二一八頁
48. 「王門欧陽徳的学問及其会試程文」『国際陽明学研究』第二号（二〇一二年）二四六―二六六頁
49. 「王門欧陽徳の学問とその会試程文」、吉田公平教授退休記念論集刊行会編『哲学資源としての中国思想』研文出版（二〇一三年）一―一六―一三八頁
50. 「担任郷試考官的進士教職」、陳文新・余来明主編『科挙文献整理与研究―第八届科挙制与科挙学国際学術研討会論文集』武漢大學出版社（二〇一三年）一六九―一七六頁
51. 「明代中期の『性理大全』―東北大学図書館蔵本の書誌学的意義に寄せて―」『集刊東洋学』第一〇九号（二〇一三年）六三―七五頁

52. 「試論万曆人士的「真仮」観——以文人屠隆的精神生活為主」『明清之際的精神与思想世界國際學術研討会』二〇一三年
53. 「人法兼任の微意——明代中後期の科挙および督学制度と思想史」小南一郎編『学問のかたち——もう一つの中国思想史』汲古書院（二〇一四年）二二三—二六五頁
54. 「明朝の提学官王宗沐の思想活動と王門の高弟たち」『日本中国学会報』第六六集（二〇一四年）一四三—一五七頁
55. 「湛若水「二業合一」論とその思想史的位置」『集刊東洋学』第一一二号（二〇一五年）六二—八一頁
56. 「明末清初時期『性理大全書』の伝播と接受」『貴陽学院学報（社会科学版）』二〇一五年第一期、三〇—三七頁
57. The Profound Intent of Valuing Both Men and Law, *ACTA ASIATICA*, Vol. 111, 2016, pp. 39-59
58. 「外簾的干預——明代中期各省郷試与思想史」、劉海峰・胡宏偉主編『科挙学的歴史価値与現実意義』華中師範大学出版社（二〇一六年）一九五—二〇八頁 ※『學術研究』二〇一六年第三期（一一三—一二〇頁）にも収録。
59. 「明朝宣徳、正統期郷試解額制度的影響」、劉海峰・鄭若玲主編『科挙学的系統化与國際化』華中師範大学出版社（二〇一六年）三二七—三三九頁 ※『教育与考試』二〇一六年第三期（五一—七頁）にも収録。
60. 「江門心学与科挙——以湛若水的事例為主」『湛若水与当代社会』広州出版社（二〇一六年）二八四—二九五頁
61. 「十三世紀北中国的程朱学与許衡的思想」『湖南大学学报（社会科学版）』二〇一七年第一期、一九—二七頁
62. 「明朝提学官与各省考試」『厦門大学学报（哲学社会科学版）』二〇一七年第二期、六五—七四頁
63. 「『新刊性理大全』的出现及其時代影響」『明末清初學術思想史再探』二〇一七年
64. 「明代諸子学史略——その形成過程を論じ地平の拡張に及ぶ」『集刊東洋学』第一一九号（二〇一八年）二二—四〇頁
65. 「徳川時代前中期の儒学与中国伝来的典籍」『東亞儒学的經典与文化』國際學術研討会』二〇一九年
66. 「万曆の王学者鄒元標の前半生とその思想」『集刊東洋学』第一二二号（二〇二〇年）四二—六一頁
67. 「仏老を雜へて仏老を超ゆ——明代思想史の一断面——（上）」『東洋古典学研究』第五〇集（二〇二〇年）六九—九二頁
68. 「明代老学史の一側面——薛蕙『老子集解』を論じて王道『老子億』に及ぶ——」『集刊東洋学』第一二四号（二〇二二年）一〇六—一二五頁
69. 「仏老を雜へて仏老を超ゆ——明代思想史の一断面——（下）」『東洋古典学研究』第五一集（二〇二二年）五七—八六頁
70. 「明代前中期における仏道兩教と国家教学の関——朱元璋・空谷景隆・祝允明の所説から考える」『アジア仏教美術論集・東アジア元・明・清』中央公論美術出版（二〇二二年）一三七—一六二頁

71. 『詹氏性理小辨』考—明末における『性理大全書』改訂の気運と陽明後学』『陽明学』第三二二号（二〇二二年）二九一—六九頁
72. 「明朝万曆期の諸子学に関する一考察—『詹氏性理小辨』考補—」『集刊東洋学』第二二七号（二〇二二年）六一—八〇頁
73. 「舜の「真心」—『孟子』万章上篇所掲説話に対する王守仁と李贄の解釈をめぐって—」、『新しい漢字漢文教育』第七三号（二〇二二年）三二—四七頁
74. 「王学の浸潤—明朝嘉靖期における科挙論策の朱陸異同論を手掛かりに—」『東方学』第一四七輯（二〇二四年）一一—二二頁

【書評・研究史・学界展望等】

1. 東北大学中国哲学研究室（書評）小野沢精一・福永光司・山井湧編『氣の思想—中国における自然観と人間観の展開—』『集刊東洋学』第四二二号（一九七九年）八二—九九頁

※第三部第四章第一節「清代の思想における氣の思想 第一節 戴震の思想における氣—氣の哲学の完成 山井湧」を担当。

2. 「（書評）溝口雄三著『中国前近代思想の屈折と展開』『集刊東洋学』第四八号（一九八二年）八五—九二頁
3. 「（書評）吉田公平著『陸象山と王陽明』『集刊東洋学』第六六号（一九九一年）一四八—一五七頁
4. 「道教関係著書論文目録 1994（平成6）年」『東方宗教』第八六号（一九九五年）横一—四頁 ※中嶋隆藏氏との共編
5. 「中嶋隆藏教授の業績と学風」『文化』第六九卷第三・四号（二〇〇六年）一九七—二〇一頁
6. 「氣と形のかたちを描く—宇佐美文理『中国藝術理論史研究』（書評）』『季刊創文』第二二二号（二〇一六年）七—九頁
7. 「晚明思潮研究のための覚書—荒木見悟先生著『陽明学の位相』に寄せて」『集刊東洋学』第一一八号（二〇一八年）一〇—一二頁
8. 「学界展望・哲学」『日本中国学会報』第七〇集（二〇一八年）三八—四九頁 ※共著。筆頭著者責任著者。
9. 「学界展望・哲学」『日本中国学会報』第七一集（二〇一九年）三五—四六頁 ※共著。筆頭著者責任著者。
10. 「良知心学与晚明思潮—荒木見悟《陽明学の位相》浅析」『中国哲学的豊富性再現—荒木見悟与近世中国思想論集』上海古籍出版社（二〇二二年）二二五—二六二頁 ※『湖北大学学报（哲学社会科学版）』二〇一八年第一期（六三—七一頁）にも収録。

【解説・紹介・随想等】

1. 「陸世儀の心性論」『人文』第三五号（一九八九年）一〇—一一頁

2. 「渾沌（こんとん）の再生」、中村捷編『人文科学ハンドブックスと作法』東北大学出版会（二〇〇五年）一三六―一三九頁
3. 「万物一体の仁の追究者―彭紹升」、橋本高勝編『中国思想の流れ（下）』晃洋書房（二〇〇六年）一四四―一四八頁
4. 「真摯で大膽」、柳田聖山先生追悼文集刊行会編『柳田聖山先生追悼文集』禅文化研究所（二〇〇八年）三二一―三二三頁
5. 「中国明代科挙試験の特殊な採点事情」『仙台市医師会報』第六〇七号（二〇一五年）三七頁
6. 「研究室便り・第88回・東北大学文学研究科の中国学」『東方学会報』第一一七号（二〇一九年）二〇―二二頁 ※責任著者
7. 「先人たちの発想法」『東北大学人物事典』2 金谷治『まなびの杜』第八九号（二〇二一年）二四―二五頁
8. 「書憶」『東北大学文学部同窓会報 ARTS AND LETTERS』第一六号（二〇二三年）九頁

【訳注】

1. 東北大学朱子語類研究会『朱子語類』本朝人物篇訳注（六）『集刊東洋学』第四七号（一九八二年）九八―一〇三頁
※本朝四・第（一〇）条を担当。
2. 東北大学朱子語類研究会『朱子語類』本朝人物篇訳注（八）『集刊東洋学』第四九号（一九八三年）九九―一〇八頁
※本朝四・第（三八）条〜第（四二）条を担当。

【事典項目執筆】

1. 廣松渉・子安宣邦・三島憲一・宮本久雄・佐々木力・野家啓一・末木文美士編『岩波 哲学・思想事典』岩波書店（一九九八年）顔元（がんげん）
2. 尾崎雄二郎・笠沙雅章・戸川芳郎編集代表『中国文化史大事典』大修館書店（二〇一三年）
雲棲株宏（うんせいししゅこう）、閔蔵知津（えつぞうちしん）、郝経（かくけい）、憨山徳清（かんざんとくせい）、許衡（きよこう）、藕益智旭（ぐうやくちぎよく）、虞集（ぐしゅう）、居士（こじ）、居士伝（こじでん）、呉澄（ごちよう）、紫柏真可（しはくしんか）、孫奇逢（そんきほう）、趙復（ちようふく）、彭紹升（ほうしょうしょう）、理学宗伝（りがくそうでん）、李純甫（りじゆんぽ）、劉因（りゆういん）、劉秉忠（りゆうへいちゆう）

3. 岩波書店辞典編集部編『岩波 世界人名大辞典』岩波書店（二〇一三年）
王廷相（おうていそう）、郝経（かくけい）、許衡（きよこう）、孫奇逢（そんきほう）、趙謙（ちようけん）、趙復（ちようふく）、趙沔（ちようべん）、鄧牧（とうぼく）、彭紹升（ほうししようしよう）、葉子奇（ようしき）、李存（りそん）、劉因（りゆういん）

【索引】

1. 「莊子外篇・雜篇索引」（語句索引・人名索引）、金谷治訳注『莊子 第四冊 雜篇』岩波書店（一九八三年）横一六一頁
※石田秀實氏との共編
2. 東北大学王船山研究会編『宋論人名書名通検稿』私家版、一九八四年 ※熊本崇・板橋眞一・堀豊・藤永朋子各氏との共編
3. 『読通鑑論人名書名通検稿』私家版、一九八六年

【Web記事】 ※二〇二三年三月閲覧

1. 「中国思想味の饅頭、もしくは科挙の答案と老荘思想の展開」『文学研究科・文学部Webアーカイブ』
https://www2.sal.tohoku.ac.jp/staff/01020201_mitura.html
2. 「心のひだ、智慧の光」『東北大学大学院文学研究科・文学部』
<https://www.sal.tohoku.ac.jp/jp/research/researcher/profile/---id-11.html>

（作成）三浦秀一先生退休記念事業会

浦山さか、尾崎順一郎、齋藤智寛（世話人）、高橋亨、高橋睦美、南部英彦、渡辺健哉、渡部東一郎

二〇二三年三月十八日発行

二〇二三年三月三十一日修訂電子版発行

二〇二四年三月三十一日修訂電子版発行